

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471001378
法人名	有限会社 リラ福祉サービス
事業所名	こすずめの里
訪問調査日	平成25年2月26日
評価確定日	平成25年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001378	事業の開始年月日	平成16年11月1日	
		指定年月日	平成16年11月1日	
法人名	有限会社 リラ福祉サービス			
事業所名	こすずめの里			
所在地	( 〒244-0044 )			
	横浜市戸塚区小雀町2058-11			
サービス種別	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年6月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・晴天の日は散歩に出かけ、富士山・四季折々の景色を楽しむことができる。</li> <li>・1日2回、朝夕の身体体操・嚙下体操、カラオケや大人の脳ドリルに取り組みやすいよう参加を呼び掛けている。</li> <li>・庭には、温州ミカン・びわ・ブラックベリー・いちじく・桑の実等沢山の果物を収穫することができ、ジャム等にし、季節を感じていただくことができる。</li> <li>・地域の行事には、参加できるよう配慮している。</li> </ul>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成25年2月26日	評価機関 評価決定日	平成25年3月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①経営は、(有)リラ福祉サービスである。平成16年11月に、この法人設立に合わせこのグループホームこすずめの里を開設した。このホームには、同じフロアに認知症デイサービスセンターとショートステイが併設されている。この法人は、当ホームの開設に続き数年遅れて順次、訪問介護、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム、介護タクシーなどの介護保険事業所を開設している。また、平成24年1月に人材育成の研修所も開設し、ヘルパー研修とその後の初任者研修、実践者研修などを行っている。</p> <p>②立地は、JR大船駅よりバスで約10分最寄り停留所より徒歩10分の富士山が一望できる高台で、緑豊かな自然に恵まれた住宅地の一角に当ホームがある。ホームの運営理念は、「入居者が主役・スタッフは伴奏者、家庭の目線で目配り・気配り・心配り スタッフも入居希望がわくケア」である。スタッフによって作られた理念であり、玄関から入って良く目に付くところに掲示し、研修等で共有を図り理念に沿ったケアが行なわれている。</p> <p>③ホームでは自治会に加入し、地域の清掃、ごみ拾いに入居者が職員と共に参加し、入居者の散歩時にはこちらから声をかけて挨拶を行い、笑顔で応えて頂き、また、ホームの行事には近隣の方の参加もあり、地域に生きる活動として交流が行なわれている。また、ボランティアの受入れ交流では、童謡や懐かしの歌の合唱に加えオカリナ演奏を聴くなど、一緒に楽しんでいる。</p> <p>④ホームではさまざまな災害を想定し、災害時通報連絡網の整備に加えて、地域には緊急時の協力依頼もして定期的に3ヶ月に1回、昼夜を想定した防火訓練を近所の元消防署長経験者の協力で行なっている。スプリンクラーは消防法で対象外であるが、法人代表者の安全への熱い思いで今年度設置した。また、非常食料備品の備蓄も行っている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	こすずめの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			○
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引き継ぎ・研修・実践・ヘルパー研修受入れにより、各スタッフが研修生への関わりの中で個々の認識が共有につながっている。	「入居者が主役・スタッフは伴奏者」「家庭の目線で目配り・気配り・心配り スタッフも入居希望がわくケア」と謳ったホームの理念を、玄関に入ったなら良く見える壁に掲示すると共に、研修などで共有認識を図っている。また、受け入れている研修生の指導において、常にホームの理念を念頭にしたOJTをすることで研修生とともに職員も支援の内容が深化している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループの歌の会、オカリナ演奏を通し、歌を歌い会話を楽しんでいる。自治会に加入し地域行事のゴミ拾いには、必ず参加している。 他のグループホーム・地域ケアプラザの行事参加し楽しんでいる。	自治会に加入し、地域の清掃、ごみ拾いなどの行事に参加し、また、クリスマス会などのホームの行事に地域の人が見えることもある。そして、入居者の散歩時にはこちらから声をかけて挨拶をし、笑顔でのお返しを受けてホームを知ってもらっている。更にホームではボランティアの受け入れで、歌の合唱、オカリナ演奏など一緒に楽しんでいる。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時等、近隣の方と積極的に声をかけ、ご利用者様との交流を支援している。 運営推進会議等で地域の方々に認知症についてのパンフレットを配布し、理解・支援を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月・4月・6月・8月・10月・12月の6回実施。 活発な意見交換が出来、理解しあえる場としてサービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回偶数月に、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、ボランティアグループ、家族、法人取締役代表、事業所管理者、職員の参加で運営推進会議が開催されホーム概況と今後の行事計画を報告し、災害時協力をお願いもして、参加者から意見や提案などを頂き理解し合える場としている。会議の結果は議事録で職員間の共有を図っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区高齢支援担当者・原宿地域包括支援センター・横浜市健康福祉局高齢施設課・神奈川県保健福祉局高齢施設課・障害サービス課等とは、連携があり、サービスの向上に取り組んでいる。	戸塚区高齢支援担当者・原宿地域包括支援センター・横浜市健康福祉局高齢施設課・神奈川県保険福祉局高齢施設課・障害サービス課等とは、連携があり、諸々情報を収集し、研修情報等も得て職員が参加し、サービスの向上に活かしている。横浜市のグループホーム連絡協議会に加入し、会議に出席して戸塚区の会員が集まり意見交換をしている。生活保護受給者の相談では、市の窓口の生活保護課と連絡交流がある。加えて高齢者支援を行う現場の立場から、情報の提供も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を持ち、全職員が正しく理解できるよう努めている。 生命・身体を保護するために対応手段がなく緊急やむを得ず身体拘束を行う場合は、切迫性・非代替性・一時性の三つの要件について検討し記録する。	契約書第10条に拘束は行わないと謳って研修も行われ、職員全員が拘束、虐待の禁止行為に付いて認識している。車椅子での移動時はベルトを着用するが停止時は外し、ベッドサイドレールは家族の了解の下で取り付けている。緊急やむを得ない身体拘束について、規定が整備されているのでそのルールに沿って支援が行われ、記録され、関係者の情報共有がされている。玄関の施錠は、見守りと寄り添いで対応する事で施錠はしていない。但し、万全を期す意味からリビング入りロドアーには開きを知らせるセンサーが取り付けられている。また夜間は防犯上家族の了解を得て玄関の施錠をしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を持ち、全職員が正しく理解できる様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を持ち、全職員が正しく理解し認識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安や疑問点を持たないよう十分な配慮をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来里された時等、近況報告と共に意見・要望等、気軽に話せるような環境作りを心掛けて対応させていただく。 意見箱を用意している。	苦情及び意見、要望、の相談について重要事項説明10項に、窓口担当者名及び公的機関窓口を明記し、家族には契約時に説明している。また運営推進会議への出席を呼びかけ、そこで意見要望が述べられる機会を設け、更には家族の来所時に管理者または職員による面接で近況報告と共に家族から意見、要望を聴くようにしている。聴取した要望意見は、カンファレンスで検討の上、運営に反映させ、結果は家族に報告している。意見箱を用意している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	有限会社ではあるがワーカーズコレクティブに近い運営で集会は設定していないが、出勤記録を提出時等記入できるようになっている。折に触れて問いかけて反映させている。	有限会社ではあるがワーカーズコレクティブに近い思想の一人ひとりの自主性を重んじた運営で、ミーティング等を通じて職員間で提案として意見を出してもらい反映させている。職員が提出する1回/月の出勤記録票の下欄に設けている職員意見欄には各職員が自由に気が付いたことを記入している。加えて管理者と職員の間は日常の会話を通じて仲間として何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて、意見要望などを聴いて運営に反映されている。内容によっては管理者を通して代表者決済を得て反映させている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	解説より社会保険労務士法人エールと契約し、労務環境を整えている。 改善交付金一部もこれにあてている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「主婦が階段を昇れる職業である」と言い続けている（3年→介護福祉士 5年→ケアマネジャー・社会福祉士等） 研修参加は申し出により自主性を重んじ強要はしていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会・相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけ話を聴き、耳を傾けありのままの利用者様を受入れることを心掛けることで安心を確保し関係作りに努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間の制限を設けず出入り出来、電話での対応も気軽にいつでも対応できる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カウンセリングの勉強をし、初期対応の見極めができるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は過去の生活記録を共有し、人生の先輩として接している。 家事等、一人一人出来ることに参加して頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症が進んだり体調を崩され居室にいる時間が多くなると周辺症状がでてくる、家族の支援があると助かるが返って本人は混乱し、夜徘徊が始まったりするが、ホームとして本人と家族の絆を大切にすることを優先している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃からのサークル等の友人から手紙・ご家族、親戚の方からの手紙や電話等、途切れることのないよう、支援に努めている。	これまでの本人とかかわりの場所や人間関係の把握は、日ごろの会話や家族からの情報等で把握している。これまでの関わりを維持する為、手紙や電話の取次ぎに加え、懐かしの場所の訪問外出、知人の来所面接など本人と家族の意向を確認の上、支援している。事例として幾年も前のサークル仲間の訪問が続けられている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、交流を支援し、ホームの家族となれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談を受けている。 退去された方の安否確認をしたい衝動に駆られるが配慮して我慢している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時より、ご自分の馴染みの家具等を持ち込まれ本人の意向の把握に努め添えるよう心掛けている。	意思表示が出来る入居者には、日頃の会話を通じて直接聴いて思いの把握を行っている。しかし意思表示が難しい入居者には、表情や行動から汲み取るようにし、又、家族からの情報の生活歴で、一人ひとりの思いや意向を把握している。本人本位を前提に若い頃からのサークル仲間との交際やご家族、親戚の方からの手紙や電話等を途切れさせないようにして支援に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報共有し把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合いながら、意見やアイデアを出し合いながら、現状に即した介護計画を作成し、月に1度のモニタリングを実施している。	介護計画の見直しは、基本的には3ヶ月サイクルで見直し検討が行われている。但し、状態に変化が見られる場合は、随時見直しを行っている。一人ひとりに適した具体的内容とする為、カンファレンスで日常生活の記録と職員個々の経過観察に基づき意見を述べあって、残存する能力の可能性を加味した介護計画を立案している。またモニタリングは日々の評価記録から月に1度判定をしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を毎日記入し、日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を毎日の引き継ぎ時やミニカンファレンス時に共有し、実践や、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイ、デイサービス等を含め、家族や利用者に向けたサービスを心掛けている。ご家族の怪我や病気や休養等の事情を考慮し、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に元消防署長、電気工事専門家、音楽愛好家が居住し支援がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	福祉施設専門の「湘南クリニック」から、1カ月に2回の訪問診療があり、24時間対応で電話連絡し、対応している。要望や必要があれば訪問歯科診療も対応できる。	本人、家族の意見を尊重し、希望の医療機関を決めている。現在入居前のかかりつけ医の継続受診者は無い。全員が協力医療機関湘南クリニック(内科)の往診を月2回受けている。また、緊急時24Hの対応となっている。必要に応じた専門医受診は、通常は家族対応になっているが、家族の希望により通院介助支援も行っている。歯科受診は、石川歯科医院であり、通院、往診に加え緊急時対応で適切な医療支援が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送り時や日々の関わりの中での気づきを看護師に伝え、相談している。 看護師も健康状態を本人やスタッフに確認しながら、適切な受診や、看護を個々受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療をして頂き、病院関係者や家族と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族と繰り返し話し合いを行い、出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、チームで支援している。	終の棲家として適切な看取り対応を果たせるよう、家族・医療機関・介護スタッフの協力で本人、家族の意思を最大限考慮して支援するとして、実施に当たり方針を具体的に定めている。先ず契約時に看取りについて説明をして、状況に応じて家族及び主治医、看護師、介護スタッフとの連携で、繰り返し検討を行い決定するとしていて、ホームの職員も共有認識している。平成23年度2名、24年度1名の看取りを行った。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	戸塚消防署、大正消防署より消防隊員の方より、防災指導を含め火災通報装置、AEDの使い方、救命処置・止血法・応急担架の作り方、搬送方法等をご利用様と一緒に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者様・職員共に3カ月に一度の避難訓練を実施している。 近隣の元消防署の方にご協力をお願いし、災害直後の避難場所として提供を依頼し了解を得ている。	さまざまな災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加えて定期的に3ヶ月に1回、昼夜を想定した防火訓練を近所の元消防署長経験者の協力で行なっている。又、マニュアルに沿った研修も行き、初期消火活動に加え避難誘導や広域避難場所の説明、災害時の行動手順などの確認を行って、地域には緊急時の協力依頼もしている。設備としてスプリンクラー設置は消防法で設置対象外であるが安全の上から法人代表者の意向で今年度設置した。又、非常食料備品の備蓄も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・生活歴を尊重し、誇りやプライバシーを尊重した対応、ご本人が選べる言葉かけ、言葉使いを心掛けている。	運営規定13条に新任・現任研修を行う事を定め、個人情報の取り扱いと守秘義務に付いて説明している。また ホーム方針として入居者の意思、人格を尊重し支援をする事を説明して、日々の会話やサービス提供を通じて全職員で理解共有している。実際の介護の場に於いても、利用者の人格を尊重した優しい言葉での話しかけと呼びかけで支援を行い、トイレ誘導もさり気なく行われている事が確認できた。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思を伝えやすいよう、選択がしやすいよう話しかけを心掛けている。 意思を表しにくいご利用者様には、手を握りゆっくりと選択出来やすいよう話しかけ、自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞・読書・編み物等、一人一人のペースを大切に支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めを希望される時、ご本人の意向を配慮し、毛染液・乳液・化粧品等一緒に買物へでかける等支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の手作りケーキ、おやつ作り、おせち料理詰め等共同作成し楽しみながら関わられるよう支援している。	調理時の手伝いで、配膳下膳などが出来る人にやってもらっている。リクエストは日常の会話で把握して、時には家族対応の外出なども交え反映に努めている。又、食事では刻み食、流動食など、一人ひとりの健康状況に合わせた食事提供をして、その人のペースに合わせて職員との会話を楽しみながら食事支援が行われていることを調査時の食事同席で確認できた。誕生日にはケーキを作り、バイキング料理と合わせて楽しんでいる。正月、敬老の日、クリスマス等には特別食で支援がされている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を1日を通じ確保できるよう、声を掛けながら、嚥下状態の良い方には、とろみをつけ摂取していただいている。食事等一人一人のご希望、状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに重点を置いているが、声かけでできる方でも、職員が出来るだけ関わらせて頂き、清潔を保つよう心がけている。各自の状態に合わせたケアを行い、義歯洗浄を行っている。必要があれば訪問歯科に連絡を取り、対応させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけをし、トイレでの排泄に力をいれ自立支援を心がけている。排泄意思表示のない方でも、毎朝便座に座って頂き、マッサージをしながら排便を促させて頂いている。	「排泄管理表」により一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し、時間を見計らったトイレ誘導で適切な支援を行っている。出来るだけ自力で排泄を試みる事でオムツの使用量を減らす工夫と、寝たきりにしないという理由でもトイレでの排泄の自立支援が行われている。更に、重要課題の便秘対策(朝の水分補給・ヨーグルト、足運動等)で、排泄意思表示のない方でも、毎朝便座に座って頂き、マッサージをしながら排便を促させて支援している。又、夜間も眠りの妨げに成らない事を前提に声かけ支援をしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	マッサージをしながら排便・排尿習慣を心掛けている。毎日、朝・夕の体操、水分摂取への個々への声かけに取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	髪染め、便失禁等の対応は出来るように、なっている。	入浴は、清潔保持、身体観察、体調変化の把握などが重要な役割があると考え、バイタルチェックと共に無理強いすることなく本人の意向を確認しながら一人ひとりの希望に合わせ、週3回の入浴をタイミングを見計らって、入浴支援を行なっている。いやがる人には、再度の声かけ等で入浴を促している。季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫をしている。またホームでは髪染め、便失禁等の対応は出来るように、なっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を望まれる方等、気軽に声をかけて下さり、様子で声をかけさせていただき、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	リーダーは服薬管理をしており、効果、効能、用途等各自の服薬説明書は全スタッフ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮して頂く誕生会・クリスマス会、お正月等、楽しみながらのケーキ作り・おやつ作り・おせち作り等支援を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・散策・買物・地域バザー・催し物等スタッフと一緒に出かけ、支援に努めている。ご家族と外出・外泊を楽しまれることもある。	散歩を日課として楽しみにしている方もおられ、今の時期は近くに梅の木が多いので梅の花を見ながら散策をされている。日々の関わりの中から希望を聴いて誘って車椅子の方にも外出が出来るよう支援を心掛け、買い物に行ったりしている。ドライブと称して車椅子の方の対応も兼ね「花見」「初詣」なども行なっている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等、一緒に出かけ清算をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・手紙の投函する時等散歩しながら出かける。 友人からの電話の取次ぎを支援している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁にはご利用者様と一緒に作成した季節ごとの飾りをしている。 玄関に季節の花を飾る。 庭で採れた食材等季節感を味わって頂くよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士の席順等工夫している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具・書物・写真等を持ち込み居心地良く暮らせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・洗面所・浴室等手摺を使用して頂いている。	/	

# 目 標 達 成 計 画

事業所

こすずめの里

作成日

平成25年2月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	防災避難訓練を夜間帯を想定して行う	昼夜問わず避難方法を職員全員が身につける	防災避難訓練に夜間を想定した避難方法を取り入れ職員間での情報共有を取り組む	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。